

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00364）

事務事業名称 景観まちづくり			款 05	項 01	目 02	事業 005	整理番号 383			
現担当課名 まちづくり推進課		係名 まちづくり景観係		連絡先電話番号 3362		昨年度整理番号 364				
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分 既定事業				
事業開始 平成元年度		実行計画事業 目標 02 施策 06 計画事業 03								
平成26年度担当課名 まちづくり推進課						事業評価区分 一般				
事務事業の概要	対象 区民、事業者、公共団体 杉並区の景観		根拠法令等 (1) (2)		景観法 都市計画法					
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか） 景観に対する区民の意識を高め、自主的に景観づくりに取り組む風土を醸成する。 魅力あるまちなみを創出する。 みどり豊かな杉並のまちを歩くことにより、新しいまちの魅力を見出し、まちに親しみを持つ人を増加させる。		活動指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)		景観新聞の発行部数 景観週間の参加者数					
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段） 景観条例、景観計画に基づく届出や事前協議等により、みどり豊かな美しい住宅都市を将来にわたり継承する。 杉並景観録の発行や景観週間を開催する。 杉並「まち」デザイン賞として、まちの景観に貢献している建築物等を表彰し区民の景観に対する意識を高める。 知る区ロードのルート上にある道標や休憩所（オアシス）の維持管理を行う。 まち歩きのための区マップを発行する。		成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)		杉並区のまちを美しいと思う人の割合 区民意向調査による					
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画	平成25年度 実績	平成26年度 計画 (目標値)	平成26年度 実績	平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)	
指標	活動指標(1)	1 部	5,000	5,000	5,000	5,000	6,000	5,000	120.0	
	活動指標(2)	2 人	1,900	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	100.0	
	成果指標(1)	3 %	76.7	79.0	78.5	80.0	78.0	80.0	97.5	
	成果指標(2)	4								
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	4,149	6,228	6,050	3,649	3,254	15,050	平成26年度 予算執行率(%) 89.2	
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 前年度は、荻外荘移築部分建物調査等を実施したため、今年度は事業費が減っています。 。執行残は、景観的に重要な建造物の調査を行っていないため、執行率が90%を割っています。	
	(内) 委託費	7 千円	2,204	3,362	3,288	1,145	897	9,740		
	職員数	常勤職員数	8 人	3.06	4.00	4.07	3.00	3.45		3.50
		再任用職員数	9 人	1.01	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
		非常勤職員数	10 人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00		0.50
	人件費	常勤職員分	11 千円	26,622	34,520	35,124	26,430	30,395		30,835
		再任用職員分	12 千円	3,969	0	0	0	0		0
		非常勤職員分	13 千円	2,750	2,780	2,780	2,830	2,830		1,415
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	37,490	43,528	43,954	32,909	36,479	47,300		
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円	7,498	8,706	8,791	6,582	6,080	9,460		
	財源	受益者負担分	16 千円	97	127	77	127	88		107
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		0
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0		0
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	97	127	77	127	88	107		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	37,393	43,401	43,877	32,782	36,391	47,193		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.3	0.3	0.2	0.4	0.2	0.2			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 383

		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	景観法に基づく行為の届出	245	部	50
		景観週間の開催	2,500	人	463
		「杉並景観録」（第20号）の発行	6,000	部	312
		「ある区マップ～善福寺・西荻北」ほか1冊等の発行	47,000	部	1,875
		その他（（仮称）荻外荘公園基本構想策定経費ほか）			554
(2) 事業実績	<p>杉並区景観計画を運用し、景観法の届出と大規模建築物や区の公共施設の整備に係る事前協議を行い、杉並らしい景観づくりを着実に進めました。一方、景観に関する区民意識を高めるため、景観新聞の発行や景観週間を開催し、普及啓発に取り組みました。また、まちの魅力を再発見するための杉並ある区マップ（善福寺・西荻北編、西荻南・久我山編）を発行しました。荻外荘については、地域住民への説明会や有識者の意見聴取を経て、（仮称）荻外荘公園基本構想を策定しました。</p>				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>事業開始当初から景観の普及啓発を主な事業として取り組んできましたが、平成21年度に景観行政団体となり、平成22年6月から杉並区景観計画の運用を開始し、景観法に基づく届出制度による景観づくりを始めました。景観は、杉並のまちに魅力を感じる指標の一つとして考えられ、区民意向調査で杉並区のまちを美しいと思う人の割合も7割を超え、着実に増加しています。ある区マップは毎年増刷するほど好評なことから、区民のまちに対する関心が高まっていることが伺えます。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>開発などで失われるみどりや取り壊される歴史的建物、伐採される貴重な樹木など失われていくまちなみの保全が求められるとともに、派手な色彩の建物や機能性、経済性重視のマンションの出現から守り、良好なまちなみの形成のための景観誘導が求められています。また、厳しい規制による景観の誘導より、区民、事業者が自ら景観に関心を持ち、自主的に景観づくりに取り組む風土を醸成していくことが期待されます。</p>			
	今後の予測	<p>杉並区景観計画の主旨が不動産事業者だけではなく、区民にも浸透することで、自らが自分のまちを美しくしようという意識がさらに高まっていくことと思われます。</p>			
評価と課題	<p>景観計画の運用開始後、延957件の届出があり、事前協議を152件行いました。これにより、事業者や区職員にも施設整備の際には、景観に配慮する姿勢が徐々に浸透してきました。また、景観計画の運用から5年が経過したので、これまでの実績を検証することにより、課題を整理し計画の見直しを検討します。荻外荘については、歴史的・文化的価値を最大限活用するため、日本の政治史において重要な会議が行われた時期を基本に、当時の状態に復元するとともに文化財指定を自指し、貴重な景観資源として将来に継承していきます。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
	今後の進め方	<p>景観法に基づく届出制度の運用により、美しいまちなみづくりに効果を上げています。しかし、建物の外壁の塗替えなど行為の内容によっては届出が行われないケースが見受けられるため、今後はHP等により周知を図っていきます。また、区民一人ひとりの景観に対する意識を高めるため、継続して普及啓発に取り組むことで、みどり豊かな美しい住宅都市を将来へ継承していきます。荻外荘については、文化財指定を視野に入れ、保存活用計画を作成します。また、荻外荘の復元整備には、長い年月と相当の費用を要するため、地域全体の理解や協力が不可欠です。このため、地域関係者や有識者等から幅広く意見交換を行い、復元整備に向けた機運醸成を図ります。</p>			

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00368)

事務事業名称		都市再生事業				款	05	項	01	目	02	事業	009	整理番号	387						
現担当課名		まちづくり推進課		係名		荻窪まちづくり担当係		連絡先電話番号		3382		昨年度整理番号		368							
上位施策No・施策名											06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり		予算事業区分		既定事業						
事務事業の概要	事業開始		平成23年度		実行計画事業		目標 02		施策 06		計画事業 01		主要事業(区政経営報告書掲載事業)								
	平成26年度担当課名		まちづくり推進課										事業評価区分 一般								
	対象		荻窪駅周辺地区				根拠法令等		(1)		都市計画法										
									(2)		杉並区まちづくり基本方針、杉並区まちづくり条例										
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)		杉並区が「住宅都市」としての価値をさらに高めていくためには、区内最大の交通結節点である荻窪駅周辺地区の活性化が不可欠である。地域特性を活かした商業の活性化や生活利便性の向上などを図り、にぎわいや魅力あるまちづくりを進める。				活動指標		指標名(1)		地元住民や各種団体、関係事業者等との打合せ回数										
								指標説明		普及啓発活動等の回数											
								指標名(2)													
								指標説明													
活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)		「住宅都市杉並」にふさわしい荻窪駅周辺地区のまちづくりを進めるために、まちの課題等を整理・共有するとともに、地域住民との協働により、まちづくりに対する機運の醸成を図り、将来のあるべき姿を描くための検討を進める。地域住民との協働により、荻窪駅周辺地区の特性を活かしたまちづくりを進めていく。南北分断の解消と都市機能のさらなる強化に向けて幅広い観点から検討を行い、国や都、鉄道事業者等と協議・調整をしながら、まちづくりを進める。				成果指標		指標名(1)		駅周辺まちづくり計画等の策定数											
								指標説明		平成23年度からの累計策定数											
								指標名(2)													
								指標説明													
区分		単位		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成26年度									
				実績		計画		計画(目標値)		実績		計画		対計画比(%)							
指標	活動指標(1)		1 回		36		30		30		31		13		103.3						
	活動指標(2)		2 回		8		1		4		3		4		75.0						
	成果指標(1)		3 件		0		1		1		0		1		0.0						
	成果指標(2)		4																		
総事業費・コスト把握	事業費		5 千円		14,561		13,201		12,129		12,947		12,300		7,452		平成26年度予算執行率(%)		95.0		
	(内)投資的経費等		6 千円		0		0		0		0		0		0				特記事項		
	(内)委託費		7 千円		9,686		10,262		9,772		10,076		10,070		5,171				荻窪駅周辺まちづくり計画等の策定数を成果指標としていますが、平成28年度までに1件の策定が目標です。		
	職員数	常勤職員数		8 人		3.14		3.00		3.33		3.00		3.37		3.00					
		再任用職員数		9 人		0.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00					
		非常勤職員数		10 人		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00					
	人件費	常勤職員分		11 千円		27,318		25,890		28,738		26,430		29,690		26,430					
		再任用職員分		12 千円		0		3,860		3,860		4,050		4,050		4,050					
		非常勤職員分		13 千円		0		0		0		0		0		0					
	総事業費(5+11+12+13)		14 千円		41,879		42,951		44,727		43,427		46,040		37,932						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15 円		1,163,306		1,431,700		1,490,900		1,447,567		1,485,161		2,917,846						
	財源	受益者負担分		16 千円		0		0		0		0		0		0					
		国からの補助金等		17 千円		0		0		0		0		0		0					
		都からの補助金等		18 千円		0		0		0		0		0		0					
その他の補助金等		19 千円		0		0		0		0		0		0							
特定財源計(16+17+18+19)		20 千円		0		0		0		0		0		0							
差引:一般財源(14-20)		21 千円		41,879		42,951		44,727		43,427		46,040		37,932							
受益者負担比率(16÷14)		22 %		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0							

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	387
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		荻窪まちづくり会議運営等支援業務委託	1	件	9,930
		その他(管理経費、消耗品購入費ほか)			2,370
(2) 事業実績	<p>荻窪駅周辺地区のまちづくりを地域住民との協働で進めていくため、地域住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」の運営を支援し、住民主体による荻窪駅周辺まちづくり将来構想の策定に向けた検討が進められました。また、荻窪まちづくり会議の活動を周知する「荻窪まちづくり通信」の発行支援などを通じて、まちづくりの機運醸成を図るための普及・啓発に取り組みました。</p>				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成23年度は、これまでの荻窪駅周辺まちづくりのあり方を検証するとともに、区を中心拠点として活性化を図るためのまちづくりの方向性や事業手法等を検討する「荻窪駅周辺まちづくり基礎調査」を行いました。 平成24年度は、多くの区民から意見を頂くための区民意見交換会や荻窪まちづくり懇談会の開催、まちづくりの課題解決のヒントとするためのアイデアコンペなどを開催しました。 平成25年度からは、荻窪駅周辺地区の住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」の設立とその運営等を区が支援することで、住民主体によるまちづくり将来構想の策定に向けた検討が進められています。</p>			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>鉄道や幹線道路による市街地の分断解消や、駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上、買い物や飲食の機会の一箇所集中によるまちの回遊性の不足などが挙げられる一方、良好な住環境については、維持・保全を求める声も多くあります。</p>			
	今後の予測	<p>今後は、「住宅都市杉並」にふさわしい荻窪駅周辺地区のあるべき姿を描き出すため、荻窪の地域に根ざした歴史や伝統といった良いところは継承しつつ、一方で時代の変化を捉えて新しいまちづくりに挑戦するなど、地域住民や関係事業者等の声を聞きながら、幅広い観点からハード・ソフトの両施策を駆使し、まちづくりを進めていく必要があります。そのために、区は引き続き、荻窪駅周辺地区の住民の方々が主体となった「荻窪まちづくり会議」の運営等を支援し、住民主体によるまちづくり将来構想の策定を目指します。</p>			
	評価と課題	<p>「荻窪まちづくり会議」において荻窪駅周辺まちづくり将来構想の骨子案がまとまり、地域住民による同構想策定に向けた取組の進展が着実に図られました。 荻窪駅周辺まちづくりの推進には、地域住民との連携が欠かせません。今後も引き続き、「荻窪まちづくり会議」の運営等の支援を通じて、地域住民等とまちの将来像を共有しながら、取組を進めていきます。</p>			
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)		
	今後の進め方	<p>荻窪駅周辺まちづくりの更なる推進を図るためには、区民との協働は不可欠です。そのためには、常に区の情報を発信し、区民と情報共有しながら取組を進めていく必要があります。</p>			

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00369）

事務事業名称 多心型まちづくりの推進			款 05	項 01	目 02	事業 010	整理番号 388				
現担当課名 まちづくり推進課		係名 拠点整備係	連絡先電話番号 3383			昨年度整理番号 369					
上位施策No・施策名 06 魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり						予算事業区分 既定事業					
事務事業の概要	事業開始	昭和44年度	実行計画事業	目標 02	施策 06	計画事業 02	主要事業（区政経営報告書掲載事業）				
	平成26年度担当課名	まちづくり推進課					事業評価区分 一般				
	対象	区民及び駅周辺地域来訪者 再開発事業などの民間再開発を行おうとする者 鉄道事業者		根拠法令等 (1) (2)	都市計画法、都市再開発法						
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	駅周辺地域を中心に、地域特性を活かしたにぎわいと多彩な魅力のあるまちづくりを進める。 民間再開発事業等を支援する。		活動指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2）	駅周辺整備に関する相談・指導回数 (27年度～)「駅周辺まちづくりに関する懇談会・意見交換会等の開催数」に変更 駅周辺の現地調査・打合せ回数 (27年度～)「駅周辺まちづくりに関するニュース等の発行回数」に変更						
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	ハード施策とソフト施策の連携の強化により、地域特性を活かしたまちづくりを推進する。 駅周辺の交通利便性・安全性を高めるための施設整備を推進する。 駅に直結する自由通路、付属するエレベーター等を維持する。 まちづくりの相談や指導を通して、地権者の組織化等の活動を支援する。 助成制度を活用し、民間再開発事業の活動を支援する。		成果指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2） 指標説明	駅周辺整備等の事業数 (27年度～) 駅周辺まちづくり方針等の策定数 助成事業の完了箇所数 (27年度～) 指標廃止						
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画 実績		平成26年度 計画 (目標値) 実績	平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)			
指標	活動指標（1）	1 回	60	100	75	100	96	6	96.0		
	活動指標（2）	2 回	54	70	65	70	81	4	115.7		
	成果指標（1）	3 か所	1	1	0	2	0	3	0.0		
	成果指標（2）	4 か所	1	1	1	0	0	0	0.0		
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	7,873	64,762	53,964	10,844	7,196	20,748	平成26年度 予算執行率(%) 66.4		
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ・25年度に行ったエレベーター設置補助が26年度はなかったため事業費が減となった。 ・業務内容の精査及び一部直営化により委託費の節減を行ったことで執行残が生じた。 ・計画的に実施してきた駅周辺整備や助成事業に一定の区切りがついたため、成果指標の見直しを行った。併せて、活動指標について今後の取組に沿って見直しを行った。		
	(内) 委託費	7 千円	1,635	4,178	3,938	7,664	6,491	15,108			
	職員数	常勤職員数	8 人	1.50	3.00	3.19	3.00	3.40		0.00	
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
	人件費	常勤職員分	11 千円	13,050	25,890	27,530	26,430	29,954		0	
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0		0	
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0		0	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	20,923	90,652	81,494	37,274	37,150	20,748			
	単位あたりコスト (14-6)÷1)	15 円	348,717	906,520	1,086,587	372,740	386,979	3,458,000			
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0		0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		0	
		都からの補助金等	18 千円	0	30,000	22,936	0	0		0	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0			
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	0	30,000	22,936	0	0	0			
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	20,923	60,652	58,558	37,274	37,150	20,748			
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	388	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単 位	事業費（千円）
		鉄道高架下等の活用に係る調査研究		1	件	3,564
		地域資源を活用したまちの魅力づくりによる駅周辺活性化の調査研究		1	件	1,631
		その他（エレベーター保守管理委託、事務費ほか）				2,001
(2) 事業実績	<p>6地区で行っているハード・ソフト連携まちづくりについては、西荻窪平和児童遊園を中心とした地域主体のまちづくり提案の検討や取りまとめなど、地域活性化の取組の支援を行いました。区内の鉄道高架下空間の活用可能性や方向性について、調査・研究を行いました。杉並区での観光まちづくりの可能性について、地域人材を集めたワークショップの実施等により、観光まちづくりのアイデア集をまとめました。</p>					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>事業開始当初は、駅舎の橋上化や市街地再開発事業等に代表される駅周辺整備を事業の中心にしています。現在は、それらに加えハード・ソフト連携まちづくりの取組により、各地区の特性や課題に応じたまちづくりを進めています。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>再開発の事業施行者からは、事業推進に向けての助成の拡充を望む声があります。その一方で、近隣住民からは、再開発により、住環境が著しく変化することが予想されるため、周辺住宅地等に及ぼす影響が大きいとの意見があります。</p>				
	今後の予測	<p>マンション等の老朽化が進みつつあり、今後はマンションの建替え等の課題がより顕在化することが予想されます。また、近年の建設費の高騰等により、市街地再開発等の事業を取り巻く環境は厳しいことが予想されます。</p>				
評価と課題	<p>ハード・ソフト連携まちづくりの取組が2年目を迎え、各地区で具体的な成果が生まれつつあります。今後は、それらが地域の活性化に着実につながるよう引き続き取り組む必要があります。また、杉並区における都市観光の可能性についてワークショップ等で出されたアイデアの具体化や、さらなる地域資源・人材の発掘が課題です。また、鉄道高架下の活用についても新たに調査・研究に着手しました。今後は地域や鉄道事業者との意見交換を進め、都市部における貴重な空間である高架下の有効活用について検討を進めていきます。さらに、駅周辺で再開発等の機運がある地区については、地権者等へのヒアリングや懇談会を開催するなど再開発等の初期の活動支援を進めることができました。</p>					
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）			
	今後の進め方	<p>西荻窪平和児童遊園の整備など、ハード・ソフト連携まちづくりによって具体化した取組について、地域の活性化に着実につながるようフォローするとともに、連携の取組を一層強化し新たな地域課題にも機敏に対応していきます。また、観光まちづくりについては、観光を所管する産業振興センターとも連携し、出たアイデアを発展させ、実現可能な取組について一部具体化を図ります。また、鉄道高架下の活用については、地域や鉄道事業者との意見交換を進め、都市部における貴重な低未利用空間である高架下の有効活用について取組を進めます。下高井戸駅周辺では、まちづくり懇談会を継続し、地区まちづくり方針の実現に向けて、地域との意見交換を進めます。</p>				